

「頸髄損傷者の装具等の使用状況とニーズに関する調査」の報告

人間総合科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科
義肢装具学専攻 教授 大塚 博

このたびは、本学の調査研究にご協力くださいまして誠にありがとうございました。またアンケートにお答えいただきました方々におきましては、格別なご配慮をいただき、深く感謝申し上げます。

本学は、対象者のQOLをサポートする人材育成を行う大学で、看護師、理学療法士そして義肢装具士の養成教育を行っております。

本調査は、私の所属する義肢装具学専攻の学生が卒業研究として挙げたテーマです。

傷病によって末梢や中枢神経のダメージを受けた麻痺者のために用いる上肢装具の学習で、頸髄損傷者のC6残存レベルに有効とされる把持装具は、手首を上に戻らず動作により、モノをつまむことが可能な装具であると学び、国家試験にもよく出題される事項となっています(図1)。しかしながら先行研究^{1,2,3)}では、把持装具を用いることは少なく、車いす駆動用グローブ、筆記具や食事用具を取り付けられる万能カフ(ユニバーサル・ホルダー)を利用しているとの報告があります。理由として、装具装着に時間がかかること、装具重量により筋力低下した上肢、体幹に負担がかかること、プッシュアップ動作を妨げることが挙げられています。これらの先行研究では、臨床経験上の印象で語られている報告が多く、ユーザーや関連職種への調査が少ないことが分かりました。そこで、私どもは、頸髄損傷の方々にアンケートをお願いできれば、実情を知ることができると考え、貴協会へ協力を仰ぎました。

質問項目は①性別、②年齢、③可能な上肢の自動運動、④入院中や退院後の装具使用の有無、⑤入院中や退院後に使用した装具の種類、⑥現在の装具使用の有無、⑦現在使用中の装具の種類、⑧日常での装具の用途、⑨現在使用中の装具の満足度、⑩現在使用中の装具に関する記述回答、⑪過去に装具を使用しなかった理由、⑫現在装具を使用していない理由、⑬装具や自助具等、その他支援機器に対する記述回答を設定しました。アンケートはWEBサイトから回答する形式をとり、期間は平成27年8月20日～同9月21日の1カ月間としました。その結果21名の貴会員から回答いただくことができました。

表1,2に結果を示します。データ数が少ないため母集団の傾向を反映しているとは断言はできませんが、先行研究と同様、把持装具の利用者は見当たらず、車いす駆動用グローブや軟性(布製)手関節保持装具の利用が高いという結果となりました。

少し話がそれますが、筋電義手の話をさせていただきます。リハビリで筋電義手の有効性を経験した切断者は、その後に筋電義手の使用を希望しますが、そうでないと“重い”、“大きすぎる”、“思うように動かせない”などの悪いイメージが植え付けられてしまい、使用を中止するという経験を前職で持ちました。義肢装具士は、義肢装具を提供し、対象者の生活を豊かにすることができて、初めて専門職としての役割を果たしたと言えます。把持装具が用いられないのは、装着しにくさや、外観のカッコ悪さなどが原因していることがわかりましたが、もし対象者が、訓練中に有効性を実感できていたら、利用率の向上につながったのではないかと考察しています。そのようなサポートが現場で行われているか、なぜ、できないのかについての調査が必要と感じました。

皆様からもご意見いただければ幸いです。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



左：エンゲン型 右：RIC型

図 1 手関節駆動式把持装具

表 1 過去に使用したことがある装具

カックアップ		短対立装具		長対立装具		手関節駆動式把持装具	
プラスチック製	布製	プラスチック製	金属製	プラスチック製	金属製	エンゲン型 (プラスチック・ 金属製)	RIC型 (プラスチック・ ひも製)
5	3	0	0	1	1	0	0
車いす駆動用手袋		BFO	スプリング パラランサー	自助具		その他	
手首まで	手首から腕まで			握りの工夫	万能フォルダ		
					プラスチック製	布製	
7	9	2	5	4	8	12	0

参考文献

表 2 現在使用している装具

カックアップ		短対立装具		長対立装具		手関節駆動式把持装具	
プラスチック製	布製	プラスチック製	金属製	プラスチック製	金属製	エンゲン型 (プラスチック・ 金属製)	RIC型 (プラスチック・ ひも製)
3	3	0	0	0	0	0	0
車いす駆動用手袋		BFO	スプリング パラランサー	自助具		その他	
手首まで	手首から腕まで			握りの工夫	万能フォルダ		
					プラスチック製	布製	
5	7	0	1	2	4	7	2

- 1) 野上雅子：頤髄損傷の上肢装具. 日本義肢装具学会誌, 28 (1) : 29-33, 2012
- 2) 大塚彰ほか：人間工学的機能的把持装具の開発・研究. 臨床バイオメカニクス, 31 : 431-437, 2010
- 3) 富永俊克ほか：慢性期脊髄損傷者の ADL と QOL の関連. 日本職業・災害医学学会会誌, 48 (6), 461-468, 2000